

【路線名：国道54号】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
1	マスタビル	中区小町14番地	事務所	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.35 q=0.21			耐震診断の結果(詳細) Is _o =0.6 X方向 8階 Is=0.2 q=0.22 7階 Is=1.1 q=1.73 6階 Is=0.6 q=0.96 5階 Is=0.6 q=0.99 4階 Is=0.7 q=1.05 3階 Is=0.6 q=1.02 2階 Is=0.6 q=0.98 1階 Is=0.9 q=1.44 Y方向 8階 Is=0.2 q=0.21 7階 Is=0.9 q=1.38 6階 Is=0.4 q=0.66 5階 Is=0.3 q=0.53 4階 Is=0.3 q=0.54 3階 Is=0.4 q=0.55 2階 Is=0.4 q=0.57 1階 Is=0.8 q=1.10
2	小松ビル	中区大手町二丁目7-12、7-13	店舗	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」に定める「第3次診断法」(2011年版)	Is=0.04 q=0.16			耐震診断の結果(詳細) Is _o =0.6 X方向 塔屋1階 Is=0.61 q=2.44 9階 Is=0.05 q=0.18 8階 Is=0.04 q=0.17 7階 Is=0.04 q=0.17 6階 Is=0.05 q=0.18 5階 Is=0.05 q=0.18 4階 Is=0.05 q=0.18 3階 Is=0.04 q=0.17 2階 Is=0.05 q=0.18 1階 Is=0.05 q=0.18 Y方向 塔屋1階 Is=0.62 q=2.48 9階 Is=0.04 q=0.16 8階 Is=0.04 q=0.16 7階 Is=0.04 q=0.16 6階 Is=0.04 q=0.17 5階 Is=0.04 q=0.17 4階 Is=0.04 q=0.17 3階 Is=0.04 q=0.16 2階 Is=0.04 q=0.17 1階 Is=0.04 q=0.16
3	革屋町ビル	中区紙屋町二丁目3番地1、3番地2、3番地3、3番地21	店舗、事務所、住宅、倉庫	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版) 別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版) 別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2017年版) 別表2(6) 一般財団法人建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断基準」	Is=0.13 q=0.53 Is=0.03 q=0.11 Is=0.16 Is/Is _o =0.26 Ctu・SD=0.11 GIS=0.99			耐震診断の結果(詳細) Is _o =0.6 X方向 塔屋階 Is=0.13 q=0.53 Y方向 塔屋階 Is=0.18 q=0.76 耐震診断の結果(詳細) Is _o =0.6 X方向 8階 Is=0.07 q=0.28 7階 Is=0.04 q=0.17 Y方向 8階 Is=0.03 q=0.11 7階 Is=0.03 q=0.14 耐震診断の結果(詳細) Is _o =0.6 X方向 6階 Is=0.41 Ctu・SD=0.40 5階 Is=0.27 Ctu・SD=0.26 4階 Is=0.21 Ctu・SD=0.20 3階 Is=0.30 Ctu・SD=0.29 2階 Is=0.25 Ctu・SD=0.23 1階 Is=0.33 Ctu・SD=0.33 Y方向 6階 Is=0.20 Ctu・SD=0.20 5階 Is=0.16 Ctu・SD=0.16 4階 Is=0.26 Ctu・SD=0.25 3階 Is=0.20 Ctu・SD=0.19 2階 Is=0.16 Ctu・SD=0.14 1階 Is=0.34 Ctu・SD=0.34 耐震診断の結果(詳細) X方向 地下階 GIS=2.24 Y方向 地下階 GIS=0.99

【路線名：国道54号】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
4	合人社 広島紙屋町アネクス	中区基町15番地5	事務所、店舗	別表2(5-5) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1997年版) 鉄骨が非充腹材の場合	Is=0.56 Is/Is0=1.03 Ctu・SD=0.45	耐震改修済	-	耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54
5	学校法人翠学園専門学校マインドビューティカレッジ	中区大手町三丁目8-11	専門学校	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.12 q=0.40			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.6 X方向 塔屋2階 Is=0.06 q=0.20 塔屋1階 Is=0.09 q=0.31 10階 Is=0.15 q=0.50 9階 Is=0.15 q=0.51 8階 Is=0.32 q=0.51 7階 Is=0.23 q=0.51 6階 Is=0.15 q=0.51 5階 Is=0.15 q=0.51 4階 Is=0.15 q=0.51 3階 Is=0.15 q=0.52 2階 Is=0.15 q=0.52 Y方向 1階 Is=0.23 q=0.78 塔屋2階 Is=0.04 q=0.12 塔屋1階 Is=0.04 q=0.16 10階 Is=0.12 q=0.40 9階 Is=0.12 q=0.40 8階 Is=0.12 q=0.40 7階 Is=0.12 q=0.41 6階 Is=0.12 q=0.41 5階 Is=0.12 q=0.41 4階 Is=0.12 q=0.41 3階 Is=0.12 q=0.41 2階 Is=0.12 q=0.41 1階 Is=0.18 q=0.62
				別表2(6) 一般財団法人建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断基準」	GIS=1.02			耐震診断の結果(詳細) X方向 地下階 GIS=1.34 Y方向 地下階 GIS=1.02
6	パークサイドビル	中区大手町二丁目8番3	事務所、店舗	別表2(5-5) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(1997年版)	Is=0.55 Is/Is0=1.01 Ctu・SD=0.45			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54

【路線名：国道54号】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
7	和光広島ビル	中区袋町5番地17	事務所、店舗	別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が非充腹材の場合	Is=0.10 Is/Is0=0.16 Ctu・SD=0.09			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.6 X方向 塔屋2階 Is= 1.84 Ctu・SD= 1.62 塔屋1階 Is= 3.07 Ctu・SD= 2.69 8階 Is= 0.47 Ctu・SD= 0.41 7階 Is= 0.29 Ctu・SD= 0.26 6階 Is= 0.23 Ctu・SD= 0.20 5階 Is= 0.20 Ctu・SD= 0.18 4階 Is= 0.16 Ctu・SD= 0.14 3階 Is= 0.15 Ctu・SD= 0.13 2階 Is= 0.10 Ctu・SD= 0.09 Y方向 塔屋2階 Is= 1.64 Ctu・SD= 1.41 塔屋1階 Is= 0.98 Ctu・SD= 0.86 8階 Is= 0.68 Ctu・SD= 0.46 7階 Is= 0.49 Ctu・SD= 0.35 6階 Is= 0.39 Ctu・SD= 0.28 5階 Is= 0.30 Ctu・SD= 0.24 4階 Is= 0.24 Ctu・SD= 0.20 3階 Is= 0.24 Ctu・SD= 0.19 2階 Is= 0.21 Ctu・SD= 0.17 1階 Is= 0.21 Ctu・SD= 0.18
				別表2(6) 一般財団法人建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断基準」	GIS=0.54			耐震診断の結果(詳細) X方向 地下階 GIS= 0.87 Y方向 地下階 GIS= 0.54
8	広島本通マークビル	中区大手町二丁目1番地7、1番地6	事務所、店舗	別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.42 Is/Is0=0.70 Ctu・SD=0.14			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.6 X方向 塔屋1階 Is= 1.99 Ctu・SD= 0.93 9階 Is= 2.34 Ctu・SD= 1.71 8階 Is= 1.56 Ctu・SD= 1.14 7階 Is= 1.22 Ctu・SD= 0.90 6階 Is= 1.03 Ctu・SD= 0.76 5階 Is= 0.64 Ctu・SD= 0.46 4階 Is= 0.77 Ctu・SD= 0.57 3階 Is= 0.70 Ctu・SD= 0.52 2階 Is= 0.67 Ctu・SD= 0.49 Y方向 塔屋1階 Is= 0.61 Ctu・SD= 0.45 9階 Is= 0.82 Ctu・SD= 0.77 8階 Is= 0.80 Ctu・SD= 0.32 7階 Is= 0.49 Ctu・SD= 0.15 6階 Is= 0.83 Ctu・SD= 0.23 5階 Is= 0.64 Ctu・SD= 0.20 4階 Is= 0.58 Ctu・SD= 0.18 3階 Is= 0.54 Ctu・SD= 0.16 2階 Is= 0.42 Ctu・SD= 0.14 1階 Is= 0.55 Ctu・SD= 0.20
9	明治安田生命広島本通ビル	中区本通6-11	事務所、店舗	別表2(5-5) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」(1997年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.54 Is/Is0=1.00 Ctu・SD=0.47	耐震改修済	-	耐震診断の結果(詳細) Iso=0.54

【路線名：国道54号】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
10	紙屋町ビル	中区紙屋町二丁目2番2、3、4、5、43、158、159他	事務所、店舗、飲食店	別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.42 Is/Is0=0.77 Ctu・SD=0.28			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.54 X方向 塔屋2階 Is= 1.91 Ctu・SD= 1.57 塔屋1階 Is= 0.42 Ctu・SD= 0.34 塔屋(A階段室) Is= 2.27 Ctu・SD= 2.36 塔屋(B階段室) Is= 2.71 Ctu・SD= 3.14 9階 Is= 1.13 Ctu・SD= 0.33 8階 Is= 0.72 Ctu・SD= 0.59 7階 Is= 0.62 Ctu・SD= 0.51 6階 Is= 0.63 Ctu・SD= 0.51 5階 Is= 0.50 Ctu・SD= 0.41 4階 Is= 0.51 Ctu・SD= 0.42 3階 Is= 0.81 Ctu・SD= 0.29 2階 Is= 0.78 Ctu・SD= 0.28 1階 Is= 0.50 Ctu・SD= 0.41 地下1階 Is= 0.70 Ctu・SD= 0.73 Y方向 塔屋2階 Is= 1.09 Ctu・SD= 0.89 塔屋1階 Is= 1.10 Ctu・SD= 0.90 塔屋(A階段室) Is= 1.03 Ctu・SD= 0.54 塔屋(B階段室) Is= 1.18 Ctu・SD= 0.61 9階 Is= 1.24 Ctu・SD= 1.01 8階 Is= 0.78 Ctu・SD= 0.64 7階 Is= 0.70 Ctu・SD= 0.57 6階 Is= 0.68 Ctu・SD= 0.56 5階 Is= 0.57 Ctu・SD= 0.47 4階 Is= 0.61 Ctu・SD= 0.50 3階 Is= 0.66 Ctu・SD= 0.54 2階 Is= 0.90 Ctu・SD= 0.28 1階 Is= 0.69 Ctu・SD= 0.56 地下1階 Is= 0.88 Ctu・SD= 0.92
11	広島興銀ビル	中区紙屋町二丁目1-4	銀行、事務所	別表2(5-5) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1997年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.61 Is/Is0=1.01 Ctu・SD=0.43	耐震改修済	-	耐震診断の結果(詳細) Iso=0.6
12	中国電力 3号館	中区小町4番33号	事務所	別表2(5-5) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1997年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.61 Is/Is0=1.02 Ctu・SD=0.55		-	耐震診断の結果(詳細) Iso=0.6
13	広島三井ビルディング	中区大手町二丁目7番10号	事務所、店舗				-	「時刻歴応答計算検証建築物に係る建築物の耐震改修の促進に関する法律の運用について(技術的助言)平成26年2月10日 国住指第3860号」による報告 ただし、長周期地震動に対する検証がされていない建築物
14	銀泉広島ビル	中区紙屋町一丁目3番2号	事務所	別表2(6) 一般財団法人建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断基準」	GIS=1.10		-	
15	市営基町第二十アパート	中区基町20番1号	共同住宅				-	「時刻歴応答計算検証建築物に係る建築物の耐震改修の促進に関する法律の運用について(技術的助言)平成26年2月10日 国住指第3860号」による報告 ただし、長周期地震動に対する検証がされていない建築物

耐震診断の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価(抜粋)

別表2

耐震診断の方法		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性			
		I	II	III	
		I. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。	II. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。	III. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。	
(3-2)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$	
(4-1)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	—	—	$1.0 \leq I_s / I_{so}$	
(5-3)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版、2017年版)	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$	
(5-4)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1983年版)	$I_g / I_{g0} < 0.5$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_g / I_{g0}$	
(5-5)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1997年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.125 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
		鉄骨が非充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.14 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
(5-6)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.125 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
		鉄骨が非充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
(6)	一般財団法人建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断基準」	$Q_u / \alpha \cdot Q_{un} < 0.5$	$0.5 \leq Q_u / \alpha \cdot Q_{un} < 1.0$	$1.0 \leq Q_u / \alpha \cdot Q_{un}$ かつ $GIS < 1.0$	
				$1.0 \leq GIS$	

※別表1、2の構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性については震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

※別表2に掲げる耐震診断の方法のうち、(4-1)から(5-6)、(11)、(12)の方法における安全性の区分については、補正係数(表中のU及びI_{so}を算出する際に用いるU)を1.0とした場合を示している。